

くすりと健康のはなし

薬包紙やくほうし

第97回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
職能対策委員 伊藤浩之

吸入器をご存じでしょうか。喘息やCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの呼吸器疾患の患者さんに薬剤を吸入してもらうことで、その症状を和らげる医療機器（デバイス）のことを主にいいます。

数年前にご年配の方が私の勤務する薬局に初めて来局されました。そして、こんな相談を持ち掛けられました。「かかりつけの薬局で吸入剤（ミストタイプ）をもらいましたが、操作方法がわかりません」という内容でした。かかりつけの薬局は自宅からとても遠くにあり、訪れるのに時間がかかるそうです。このような相談は長年勤務していると時々あります。吸入指導をしていると、本当にこの患者さんが吸入できるデバイス（吸入器）なのかなと時々疑問に思う時があります。

近年、吸入薬や吸入デバイスの種類が増え、同じ効能でもたくさんの種類の吸入デバイスがあります。デバイスによって、操作手順や注意事項は少しずつ違います。そのため、医療従事者が患者さんへの吸入指導に当たって戸惑うことがあります。

吸入器はきちんと使えていますか？

また、どんなに効果の高い優れた薬剤を用いても、吸入デバイスを正しく使用し、的確に吸入しないと意味をなしません。一般的に薬物療法は患者本人の管理能力が問われますが、吸入剤の場合はデバイスの手法を習得する必要があります。また、患者さんの年齢層は小児から高齢者までと幅広く、指導する薬剤師もそれなりの知識とテクニックが求められてきます。特にパーキンソン病などの疾患による握力の低下、手指の障害、聴力障害、視力低下による操作困難、高齢者や小児の吸入する力が足りないなど、一人ひとりの事情も異なることから、時には薬剤師が処方医に患者さんの背景を伝え、適したデバイスの提案も必要となります。

正しく吸入できているかを、薬剤師が定期的にチェックするのはもちろん大切です。しかし、患者さんに適したデバイスの提案によって、今まで改善されなかった喘息やCOPDがコントロールされ、患者さんのQOLの向上が期待できます。